

未就学児を持つ母親のSNS利用とソーシャル・サポートの関連

安藤香織、佐藤美礼

(1奈良女子大学生生活環境学部・2愛知淑徳大学)

目的

■本研究では、未就学児を持つ母親のSNS利用の実態を明らかにする。

SNS利用の規定因は何であるか

SNSによりどのようなサポートを得ているかを検討する。

・子育て中の母親にとってのコミュニケーション

乳幼児を持つ母親は社会的に孤立しやすく、孤独感を抱きやすい(牧野1988)。

→SNSによるコミュニケーションは、時間、場所に制約されないため、子育て中の母親にとって有効なツールとなるのではないだろうか。

方法
調査時期
対象者
調査方法
回答者

2011年7月～9月

幼稚園、保育園に通う子どもを持つ女性

愛知県内の幼稚園2カ所・保育園4カ所にて質問紙調査を実施。保育者より母親に質問紙を配布し、園において回収した。

配布数784部に対し有効回答数489部(有効回答率62.4%)。うち、幼稚園269部、保育園228部。

■SNSとネットワーク

SNSと利用者のネットワークの関係について、対立する以下の2つの仮説が考えられる。

仮説1

・SNS利用者の方がネットワークが小さい

・実生活において家族や友人からのサポートが得にくい場合に、その代償としてSNS利用を行う人が多い

仮説2

・SNS利用者の方がネットワークが大きい

・外向的でネットワークを広げることに積極的な人の方がSNS利用を行いやすい。

・外向的な人ほどメールや携帯の使用時間や頻度が高いことが指摘されている(吉田, 2004)。

結果

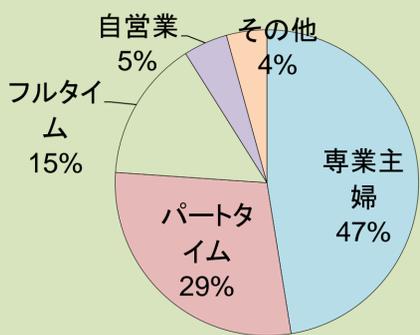


図1 就業形態

表1 回答者の属性

	平均値
年齢	34.77
子ども数	2.13
末子年齢	3.01

保育園の回答者でも非就業者、幼稚園で就業者も含まれたため、幼稚園、保育園の回答を同時に分析。専業主婦が約半数、フルタイム勤務は15%であった。

表2 子育て情報源

	利用経験(%)	最も信頼(%)
友達	72.4	34.3
親	70.1	34.1
保育者	53.2	10.0
育児書籍	50.5	5.1
インターネット	42.7	4.7
保健所(センター)	36.4	4.7
その他	3.7	3.3
テレビ	60.9	2.0
新聞	33.5	1.6
電話相談	14.7	0.2

情報源としては、友達、親が利用経験、信頼共に高い。インターネットは利用率が高いが、信頼は低い。

	登録している	登録していない	利用率(%)
Mixi	102	387	20.9
Facebook	10	479	2.0
Twitter	25	464	5.1
いずれかを利用	110	379	22.5

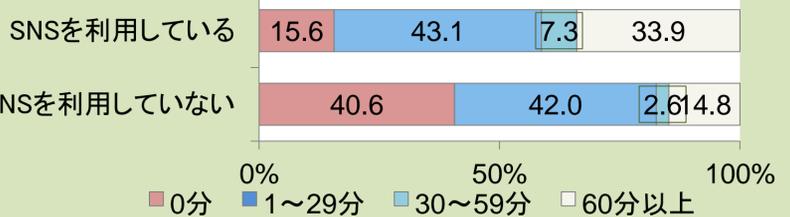


図2 1日のインターネットの利用時間

表4 SNSの利用者と非利用者の比較

N	SNS利用		t値
	あり(110)	なし(379)	
母親の年齢	32.61	35.41	-5.95***
子ども数	2.11	2.13	-0.30
インターネット利用時間	43.13	20.90	5.92***
夫サポート	4.33	4.13	2.04*
ママ友数	11.65	9.27	2.32*
親しいママ友数	4.28	3.05	3.60***
その他の友人数	5.72	4.53	2.42*
育児ストレス	2.85	2.79	0.90

SNS利用者の方が年齢が低く、また友人数が全体的に多い傾向が見られた。SNS利用者の方がネットワークが大きい。

表5 SNS利用の有無によるロジスティック回帰分析

	B
本人の年齢	-0.129***
就業の有無(ダミー)	.140
夫サポート	.251 ⁺
友人ネットワーク	1.602**
育児ストレス	.380 ⁺
定数	-.195
適合度検定	$\chi^2=4.407(df=8)$
(HL-test)	p=0.82

***p<.001, **p<.01, +p<.10

適合度はHosmer and Lemeshow検定による

SNS利用者の方が友人ネットワークが多く、本人の年齢が低くなっていた。就業の有無による差は見られなかった。

表6 友人サポートに関する因子分析

	共感因子	否定的感情因子
H6子育てのつらさや悩みに共感したこと	.844	.023
H4自分のことをよく理解してくれていると感じたこと	.839	.038
H9やりとりをすることで、励まされたこと	.831	-.053
H5子どものことをよく理解してくれていると感じたこと	.819	.008
H2子どもの心配事があるときに頼ったこと	.761	.215
H1自分の子どもの様子や出来事を報告すること	.752	.126
H8子育てに悩んでいるのは自分一人ではないと感じたこと	.718	.048
H3子どもの将来について意見を交換し合うこと	.634	.347
H10やりとりをすることで、ひどく傷ついたこと	-.120	.866
H7子育てをしている相手と比較して、落ち込んだこと	.235	.785

←SNS、友人共に2因子解でほぼ同じ構造であった。以下、各因子に負荷の高い項目の単純加算平均を用いる。

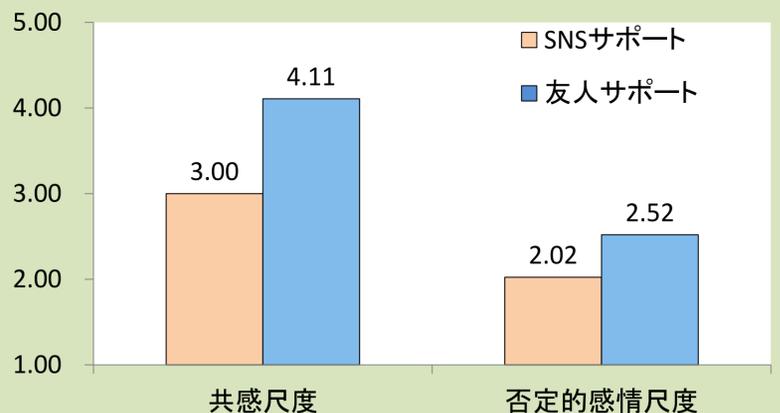


図3 SNS利用者間におけるサポートの比較
SNS利用者であっても、現実の友人関係からのサポートの方が多い。一方、否定的感情も現実の友人の方が高い。

考察

■SNS利用の実態

回答者のうち、SNS利用者は23%であった。Mixi利用者が主でFacebookの利用者が少なかった。

Facebook利用者は1083万人(nielsen,2011)と日本において増えてきているが、子育て中の女性の年齢層においては、まだそれほど広まっていないことが示された。

子育て情報源としては、友人、親が利用経験、信頼共に高く、インターネットは4割ほどの利用率があるものの、信頼は低かった。

■SNS利用の規定因

ロジスティック回帰分析の結果、年齢が低く、ネットワークの大きい人ほどSNSを利用していた。

ネットワークとSNS利用の関係について、仮説2が支持された。SNS利用者の方が実際の友人数が多く、夫サポートも高い傾向であった。外向的でネットワークを広げることに関心を高い人がSNSを利用しやすいと考えられる。

SNS自体がサポートの役割を担うのではなく、SNSが友人を作るための媒体となったと考えられる。

自由記述より

ケース1

市の妊婦の集まりなどでは友達ができず、出産後すぐに引っ越して近所に親しい友達もいない中、友達に紹介されたMixiで近所の友達ができました。Mixiがなかったら、こんなに友達もできず育児の相談や日々の悩みを打ち明けられる友人がいなかったと思います。

ケース2

私は出身地から離れ、友達一人いない地域で出産した。病院の看護師に親切にしてもらったけれど、出産後軽い育児ノイローゼになった。しかしMixiで今の育児サークルに入り助けられた。今は少しずつ知り合いも増え、サークルに頼ることもなくなったが、出産後三ヶ月くらい外に出られなかったとき、インターネットは心の支えだった。